

「研究の多様性を支える学術政策」

—大学等における学術研究推進戦略の構築と国による支援の在り方について— (概要)

はじめに

我が国の学術政策は次のような状況の変化の中、転機にたっている。

- 21世紀は、知を基盤とする社会の時代であり、知の創造・継承・活用は社会発展のために不可欠。学問もボーダーレス化し、「知の大競争時代」が到来。
- 学術研究の中心を担う大学の改革が進み、国立大学等の法人化を契機に、国公私立大学等がそれぞれの個性や特色を活かしながら大きく変容。
- 科学技術基本計画の下で競争的環境の醸成や産学官連携などが進展するなど、科学技術基本計画に基づく重点投資が学術研究全般にも大きな影響。
- 諸外国も科学技術・学術政策の関連予算を強化。中国、韓国等も追い上げ。我が国の世界のフロントランナー、アジアのリーダーとしての地位の維持が課題。

第1章:多様な学術研究の総合的な推進

1. 学術研究の今日的意義

- 学術研究は、それ自体人々の知的好奇心、探究心を満たし、**優れた知的・文化的価値**を有する。
- 学術研究により、経済・社会の力強い発展の源泉となる**重厚な知的ストック**が構築され、その発展は**知による安全保障・高度な教育・優れた人材育成**に不可欠。

2. 学術政策の基本的方向性

- 今後、学術政策を推進していくためには、①**研究の多様性の促進**、②**個々の研究者の持つ意欲・能力の発揮**を図ることが必要。

3. 大学等と国の果たすべき役割

- 各大学等において、研究者の意欲と能力が最大限発揮されるような研究環境を整備する観点から、**学術研究を推進するための戦略(学術研究推進戦略)**を確立することが必要
- 国においては、研究者、大学等の取組みを支援するのみならず、我が国の学術研究全体を**中長期的な視野に立って着実に推進**することが必要。

第2章:各大学等における学術研究の戦略的な推進

1. 基本的な考え方

- 国公私立大学等を通じた競争的な環境の中で、研究の高度化を図ることが求められており、今後、各大学等が緩やかに機能別に分化していく中、**各大学等がその主体的な判断により、学術研究推進戦略を構築**することが必要。

2. 国公私立大学等における学術研究推進戦略の構築—3つの戦略—

- 学術研究推進戦略は、各大学の実情に合わせて構築されるべきものであるが、その根幹となる**「人材・組織戦略」「研究資金戦略」「研究基盤戦略」**の3つの戦略については、特に検討しておくことが必要。

3. 大学等間連携による研究の活性化

- 学術研究は切磋琢磨と連携によりブレークスルーが得られるものであり、**大学等間の連携による研究の活性化**が不可欠。

第3章:国による多様な学術研究の支援

1. 基本的な考え方

- 国は、個々の研究者と各大学等の研究活動が円滑に行われるように支援を行うことが基本であり、**我が国の政府負担研究費と高等教育機関への公財政支出の対GDP比を欧米諸国並みに近づけていく**ことが必要。
- その際、①**デュアルサポートシステム**による研究の多様性の促進、②研究者と大学等の研究活動を支援する**多様な方策の構築**、③**独創的・先端的な研究の推進と研究拠点(ネットワーク・ハブ)の形成**、を基本的な考え方とすることが適当。

2. 具体的な方策

- 国は、今後特に次の項目に重点を置いて支援を拡充することが必要。
 - ①**基盤的経費の確実な措置と多様なファンディングの拡充**
 - ②**学術研究基盤の着実な整備の支援**
 - ③**世界的研究教育拠点の一層の整備と世界で活躍できる若手研究者の育成**
 - ④**国際的に開かれた大学等づくりの推進と学際的・学融合的研究分野の推進**

おわりに:学術研究の推進に国民各層の幅広い支持を得るために

学術研究は**国民各層の幅広い支持**無くしては発展しえないものであり、①国民への説明責任と学術研究を国民に身近なものとする方策、②次世代への還元と知的ストックの継承、③産学官連携の推進などにより、研究者、大学等、国のそれぞれが学術研究において得られた**豊かな知的ストックを国民・社会に広く還元し、共有・継承**する意識を常に持ち続けることが不可欠。